

# 静岡松涛タイムス 第62号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL：http://www.shizuoka-karate.com/ (公式 HP)

http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/ (広報部)

Photo：梅にうぐいす

## 川根支部初宮参拝・合同初稽古



年明け間もない1月3日(木)に、川根支部(川根道場・中川根道場・本川根道場)の、初宮参拝と合同初稽古が行われました。道場の繁栄とメンバーの空手道成就を祈願する初宮参拝は、毎年恒例となっており、地元の浅間神社にて神主様よりお祓いを受けた後、上中支部長をはじめ代表メンバーが神前に捧げ、祈念しました。神社の境内にて準備運動後、ランニングで稽古会場まで向かい、全員が空手着となって基本稽古から平安の型・得意型を、支部長の歯切れの良い号令と共に行いました。氷点下の気温にもかかわらず、額からは大粒の汗が流れ、参加者の本年に向けての気迫を感じ取ることができました。約一時間の稽古の後、再びランニングにて本部道場に戻りました。本部道場ではご父兄の用意してくれた豚汁やお汁粉が振る舞われ、冷えた体に暖をとりました。「空手着を着ると身が引き締まります」と話してくれた会員もいて本年の活躍が大会シーズンにて早くも期待されます。(レポーター：広報部 秋山高士)

## 将陽館本部道場稽古初め



年が明け、平成も25年目を迎えた1月6日(日)に、「平成25年将陽館本部道場稽古初め」が焼津市の将陽館本部道場にて行なわれました。当日は、昨年末からの猛烈な寒波の襲来で、たいへん寒さの厳しい1日となりましたが、朝早くから将陽館本部道場には幼年から一般まで、大勢の道場生が集結しました。全員整列の後、神棚に今年1年の発展・活躍を祈願しました。将陽館の1年は砂浜での初稽古より始動します。片道3kmの海岸まで全員でランニングをします。若手指導員が中心となってメンバーをリードします。海岸に到着すると、黒帯が交互に号令を掛けて基本稽古を進めます。道場生の顔には、みるみるうちに汗が浮かび、呼吸が弾んでくるのがわかります。正月気分は一切ありません。平安の型を流した後、再びランニングで本部道場に戻りました。道場生全員が皆の前で今年の目標を発表し、菊地将元館長のお話を聞き、みんなで豚汁やお汁粉をいただきました。毎年全員でいただく豚汁やお汁粉は、道場生の為に館長夫人が自ら心を込めて作ってくれているそうです。見えない部分でのサポートの強力が、将陽館の原動力でもあります。本年の活躍が期待されるホットな道場の1つであることは間違いありません。

## 国際ロータリーインターミーティングにて演武

2013年2月3日(日)ホテルアソシア静岡ターミナル3F駿河の間にて、国際ロータリー第2620地区静岡第4分区インターシティミーティングが田辺信宏静岡市長をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り盛大に開催されました。引き続き開催されました懇親会のアトラクションにて、安倍川支部の支部長及び指導員と道場生による空手演武を披露させていただきました。まず、最初に高校生女子個人型(観空大)から始まり、続いて指導員を含めた男性1名女性3名で行う木板による試割り(観空大)を披露させていただきました。更に一般を含む女性3名による団体型(抜塞大)を演武。演武に続き〔抜塞大〕分解型を披露させていただきました。私が日頃お世話になっているIM実行委員長の鈴木正久氏からお話を頂いた時、空手を通じて人づくりから始まり「仲間づくり・チームづくり・成長」というイメージが次第に頭に浮かんできました。「よし!皆に提案してチャレンジをしてみよう!」と思いました。いろいろ課題は出てく

るとは思いましたが、チャンスだと思い引き受けました。2ヶ月程前から演武の練習を始めましたが、皆さんのスケジュールもありますので、皆が揃っての練習は本当に限られた時間内でしか行うことが出来ませんでした。本番が近くなると各自が仕事・家庭・勉強を持ちながらも出来る限りスケジュールを調整し、休日昼間の1~2時間に皆揃って、本部道場でビデオ確認をして何度も繰り返し練習をしました。当日は、2時間ほど前から会場入りしてリハーサル練習をさせていただき本番を迎えました。今回の司会進行役に秋山指導員、木板による試割りを小林指導員、個人型は田辺果菜、女性有段者団体型及び分解型には塚本指導員・田辺敦子・田辺果菜、記録として支部主将の田辺力也も配置につき、照明・音楽・総括を私〔田辺〕が行わせていただきました。会場には200名程のお客様がお食事を楽しんでおりましたが、演武が始まった途端に会場内は静まり、皆さんの視線が演武に向いたのがハッキリと伝わりました。司会役の秋山指導員が会場の皆さんに解りやすく演武の説明と解説をし、音楽と照明の効果も活かして、進行していくことが出来ました。そしてすべての演武終了後、一斉に大きな拍手に包まれ無事に終了!同時に会場内からは「良かった、素晴らしかった!」との声をたくさん頂きました。支部活動の一環としてや、松涛館流空手道を広めていくためにも、今後もこのような機会があれば積極的に参加していきたいと思えます。今回の演武が無事に終了出来ました事を、主催関係者の皆さまに感謝すると共に、協力してくれた安倍川支部の皆さんに感謝いたします。また、空手道のイメージがより一層良くなりと共に素晴らしい記念にもなり、何よりも仲間との絆が一段と強くなりました。本当に心より感謝いたします。ありがとうございました。(レポート：安倍川支部支部長 田辺 豊)



### 平成 24 年度 3 月期昇段審査

少年部初段	岩崎 太夢(麻 機)	大橋 彩花(静岡東)	赤堀 聖和(駿 河)	加藤 皓大(麻 機)
小長井一希(焼 津)	安本 有沙(駿 河)	石原 塔也(静岡北)	鷲野 元哉(焼 津)	豊泉 有理(焼 津)
堀川 裕輝(焼将陽)	望月 琢真(川 根)	須藤ひなた(高 洲)	加藤 亜美(麻 機)	竹中 大雅(麻 機)
吉田 貴瑛(島 田)	一般部初段	丸山 静歌(島 田)	堀田 利治(駿 河)	加藤 秀文(麻 機)
一般部弐段	中野 裕太(高 洲)	福間 秀昭(安倍川)	三浦 夢穂(清 水)	

### 第 9 回やまびこ杯争奪空手道大会



まだまだ寒い日が続く早春の川根路、島田市立川根中学校体育館にて、3月24日(日)川根支部主催の「第9回やまびこ杯争奪空手道大会」が盛大に開催されました。やまびこ杯も今年で9回を迎え、参加道場は川根支部に加え、県連で活躍中の友好道場の合計8道場が参加し、幼年から一般まで約150名が熱戦を繰り広げました。やまびこ杯と銘打ったこの大会は、選手の気迫や仲間の応援が周りの山々にこだまし、過疎化が進む町全体が元気になるのを願って始まったのがきっかけです。午前中は型の試合を行いました。ルールは自由型とし、同じ型を何回打ってもよしという事で行いました。様々な流派の型を見ることができ、中にはレベルの高い選手もいまして、参加した選手も大変勉強になったと思います。昼休みには川根道場5年生による「エンピ」の分解を披露しました。大勢の前での演武ということで、緊張のあまり少し動きが硬かったように見えたが、各自精一杯演武を行っていました。次に、川根支部の稽古で取り入れている「カラテビクス」を行いました。これは、上中師範が考案した空手とエアロビクスを融合したもので、音楽に合わせて空手の基本的な動作を行います。これを選手だけでなく、会場のご父兄や審判の先生方も一緒に行い、みんなで盛り上がる事ができました。午後は組手の試合で自由組手を行いました。他道場の選手は技が多彩でと思いました。そして、やまびこ杯と言えば「応援」です。道場ごとにチームとして戦うのですが、素晴らしい応援をしたチームには「応援ポイント」が与えられます。この応援ポイントはそれによって、優勝が決まってしまうとウェイトが大きいのです。息の詰まるような熱戦と会場が揺れんばかりの応援の中、見事大会を制したのは颯志館道場でした。(レポート：川根支部 鈴木 雄一郎)